

甲賀の國づくりプロジェクト
— 甲賀流まち・ひと・しごと創生総合戦略 —
【総合戦略編】



平成28年（2016年）2月

甲賀市

(表紙裏)

1. 序論

① 国の動き - 「人口減少社会」からの脱却と地方創生 -

わが国の人口は、平成 17（2005）年に減少局面に入り、少子・高齢化と相まって継続的に人口減少が進む「人口減少社会」となっています。加えて、東京など大都市部に人口が集中することで、地方部の人口構造の持続可能性が大きく損なわれてきています。

こうした状況を受けて、国では「まち・ひと・しごと創生法」を施行、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定して、地域の特徴を活かした自律的で持続可能な社会の創生を図るとしたところです。

② 甲賀市における地域創生

本市においても、急激な人口減少と超高齢社会化が進むことが見込まれることから、国の制度整備に先んじて、平成 26（2014）年 10 月より「甲賀の國づくりプロジェクト会議」を設置し、検討を進めてきました。

そのなかで、2060 年を展望し、次世代が暮らす「元気なこうか」をつくるため、国・県の戦略も踏まえつつ、本市の実情を反映した「甲賀らしい」戦略を策定し、5 年間の集中的な取り組みを展開することとしたところです。

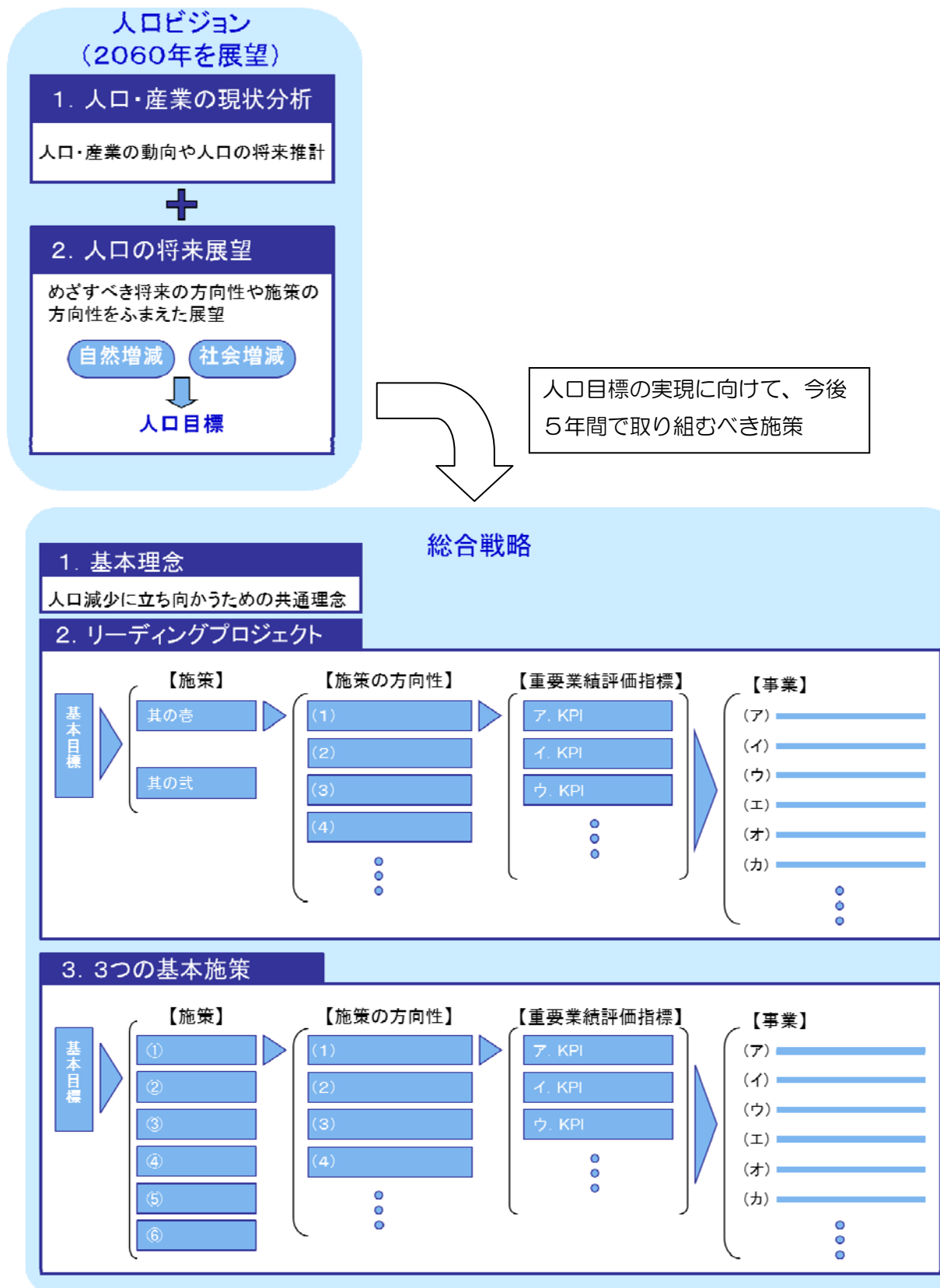
③ 策定の経緯

策定にあたっては、甲賀市総合計画審議会や関係団体、各分野の有識者などからのご意見等を頂いたほか、各種統計や地域経済に係わる様々なビッグデータの分析結果、市民意識調査結果を踏まえています。

また、「県・市町人口問題研究会」において、県内各地域の現状・課題等の情報を共有するとともに、人口減少問題に係る政策研究や、国・県の動きとの協調などを図りました。

④ 本戦略の構成

この戦略は、本市の人口の現状を把握・分析し、地域社会として目指す人口規模・構造のあり方を描く「人口ビジョン編」と、地域の実情を踏まえて設定した戦略目標とその達成の取り組みを記した「総合戦略編」で構成しています。



2. 戦略の基本理念

市民幸福度の最大化で わがまち「甲賀」の人口減少に挑む

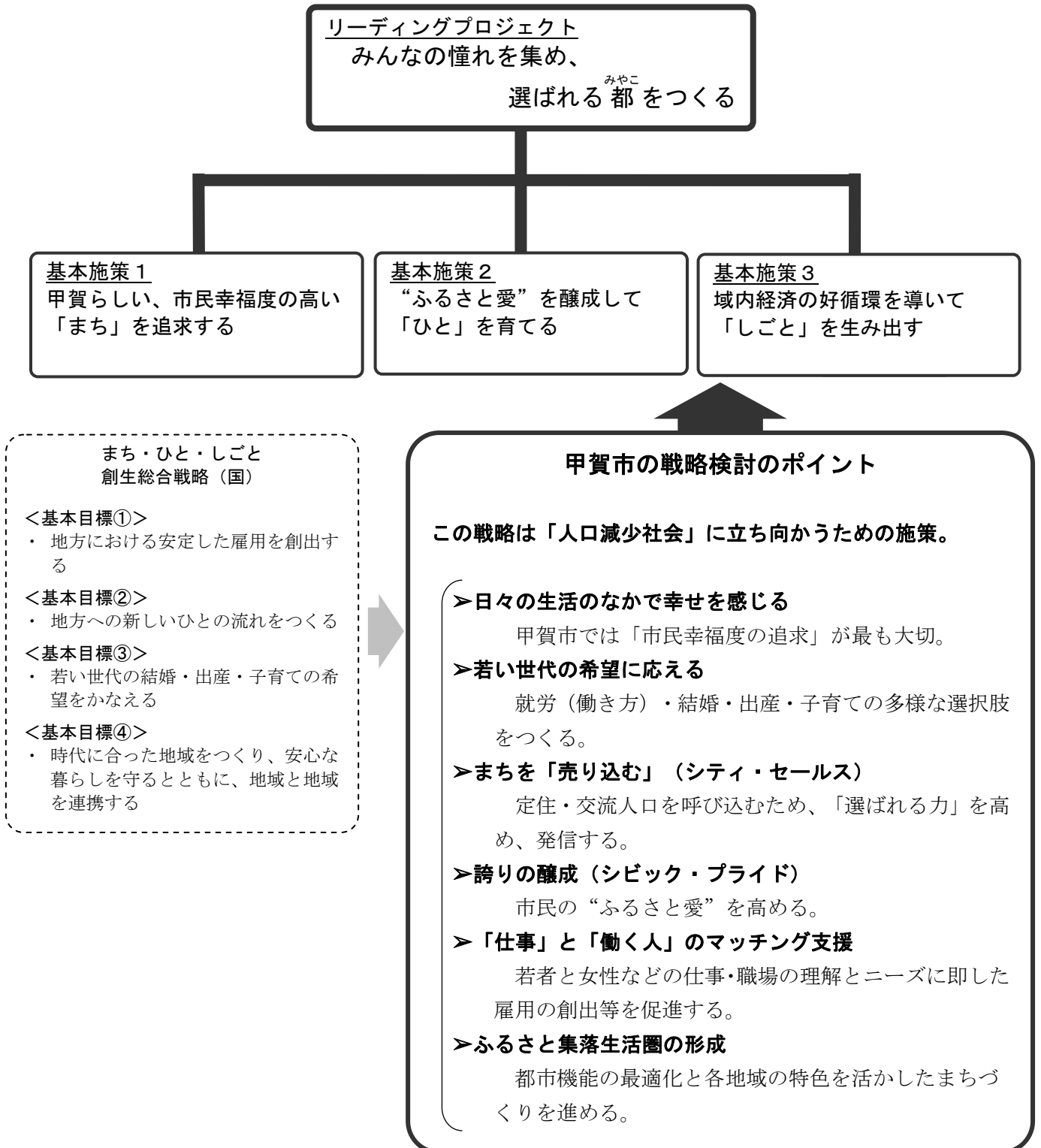
この地に暮らせば、日々の営みに「満足」や「幸福」を感じ取ることができる。誰もが健康でいきいきと、安心して、豊かに暮らしていて、もし誰かが不幸に苦しむことがあれば、温かい手が差し伸べられる。

そういうまちだからこそ、人は離れず、まちの外から人々が集まる。若者がまちに留まって、新しい家族が生まれ、子どもの声があふれる。

私たちは、誰もが日常の生活で幸せを感じることができるまち、市民幸福度が高いまちをつくっていくことが、最も優れた人口減少の対策であると考え、これを本戦略の基本理念とします。

3. 戦略の目標

国の戦略の枠組みと前述の基本理念を踏まえて、戦略全体を進めるうえで核となり、先導的な役割を果たすリーディングプロジェクトとして『みんなの憧れを集め、選ばれる^{みやこ}都をつくる』を据えることとし、まち・ひと・しごとの各視点からの基本施策で構成します。



4. 戦略の視点

① 「攻め」と「守り」で、急激な人口減少を避ける

人口減少の対策には、出生率の向上によって人口の増加と人口構造の安定化を図る「積極策」と、避けられない人口減少に向き合い、地域社会の仕組みを今後の人口構造の予測に即したものに再構築する「調整策」があります。

本戦略では、これら「積極策」と「調整策」を両輪として、併せて推進することを重視します。

② 若い世代の希望に応える、多様な選択肢をつくる

甲賀市の将来を担う市民が、自分たちが持つ「希望」をかなえることができるまちをつくるのが、現在の甲賀市をあずかる私たちの使命です。

本戦略では、甲賀市に住み続けたい・移り住みたい、このまちで働きたい、結婚したい、子どもを産み育てたいという、次世代の「希望」に応えていくことを重視し、社会環境に選択肢の幅を広げていきます。

③ 地域資源を活用し、地域ごとの魅力創生を図る

約 482km²という広い面積の甲賀市には、人口が増加している地域と過疎が進んでいる地域があり、人口動向に伴う地域環境の変化も一様ではありません。もちろん、歴史的・文化的な特性も地域ごとに様々です。

それぞれの地域の特性・実情を踏まえた主体的な取り組みによって、地域にある様々な資源を発見・再発見し、取り結び、活かして、これからの各地域、市全体の発展につないでいく必要があります。

本戦略では「今ある地域資源（あるもの）」を最大に活かし、「今ない地域資源（ないもの）」については、それを見つけるチャンスが残されていると捉えて、新たな地域資源を見つけて、活かすチャレンジを重視します。これらの素晴らしい地域資源を活かすことで、色とりどりの「都※」を創り出します。

※都（みやこ）

人が集まり、生活・文化・経済の中心となるところ。

5. 戦略の期間

平成 27 (2015) 年度からの 5 年間

この戦略の期間は平成 27 (2015) 年度から平成 31 (2019) 年度の 5 年間とします。なお、平成 29 年 4 月を期首とする「(仮称) 第 2 次甲賀市総合計画」の検討・推進を踏まえて、必要に応じた見直しを行います。

6. 戦略の推進

① 市民に見える“旗”を立てる

地域創生は、少子・高齢化と人口減少による、劇的な人口構造の変化が進む中で、自律的で継続的な地域社会を保つため、地域の特性を最大に活かしながら、戦略的かつ集中的に行わなければなりません。

そのため、戦略目標の達成に向けて、行政がリーダーシップを発揮し、市民及び産・学・官・金などの総力戦で人口減少に立ち向かいます。

② 臨機の事業改善を繰り返す

各戦略プロジェクトは、短期・集中的に行い、戦略目標達成に向けて実効を上げる必要があることから、事業の実施にあっては、重要業績評価指標 (KPI) を設定・活用し、適時の効果検証と事業の見直しを行います。

③ 県、他市町と共に立ち向かう

人口減少問題は、甲賀市が独力で対応できるものではありません。滋賀県内の市町間で課題を共有し、互いの切磋琢磨と地域の魅力を高めることで、県全体の創生を図り、人口減少問題に立ち向かいます。

7. リーディングプロジェクトおよび基本施策

戦略の目標を達成するために取り組むリーディングプロジェクトと3つの基本施策を以下に示します。

“甲賀の國づくり”リーディングプロジェクト

みんなの憧れを集め、選ばれる^{みやこ}都をつくる

基本目標

- 古代、遷都により紫香樂宮が造成されるなど、日本の中心となった地域資源を活かすことで、みんなが憧れ、誰もが住みたくなり、企業からも選ばれる「都」を創り出します。
- “忍者”という他の自治体にはない、世界的に有力なコンテンツを活かしたシティ・セールスを展開します。
- 私たちが守ってきた豊かな自然環境や、地域の生活とともにある伝統的な文化、歴史的にも特徴的な郡中惣という自治組織の風土など、人々のきずなに根ざした地域コミュニティを活かしながら、人口減少に対応した都市機能の最適化を図ります。
- 産学官金の各機能が分散配置された本市の特性を生かして、農村の新たな可能性を成長させ、全国のモデルとなる「コンパクト・ビレッジ」を創ります。
- 市民生活の利便性を支えている公共交通や道路のネットワークを再認識し、その強化・充実によって、「ひと」と「もの」の新しい流れを生み出します。

其の壹 世界を「忍者」で魅了する！！感幸創生プロジェクト

- 東京オリンピックの開催を見据え、日本を代表するクール・コンテンツである「忍者」をキーワードとし、広域連携のもとでのインバウンド・マーケティングを進めます。
- 地域振興の先導的な役割に「忍者」を据えることで、地域ならではの観光・地場産業などへの波及効果を生み出し、若者、女性の就業ニーズの高い第3次産業の”しごと”の場を創出します。
- 忍者を中心とした観光拠点施設を官民連携により整備し、唯一無二の観光ルートを“ひとつ”創ることで、観光客の宿泊・滞在時間を増やします。
- 地域全体の観光マネジメントを行うプラットフォームとしての甲賀市版観光DMOの立ち上げをめざし、東海道の町なみや紫香楽（信楽焼）、お茶、自然、文化、伝統技術など、地域の観光資源のさらなるブランド化を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標
観光入込客数	2,890,000 人／年 (H26)	3,140,000 人／年 (H31)

其の貳 未来モデルの“都”^{みやこ}を創る！！

コンパクト・ビレッジ+ネットワーク構想

- 安定した雇用の場を確保するため、全国有数の内陸工業県としての特性を活かし、戦略的な企業誘致（本社機能）を進めるとともに、ICTなどの“あるもの”を活かしたベンチャー企業などに対して、行政のバックアップを充実することで、企業から選ばれるまちとなります。
- JR 草津線、信楽高原鐵道、近江鐵道および主要幹線道路の沿線において、土地利用規制（都市計画、農地保全等）の大幅な見直しを行い、良質な住宅の誘導により、新しい“ひと”の流れを生み出します。
- 人口流出の歯止めとなる、いわゆる「ダム機能」を創り、若者・高齢者の「住みなおし」と「三世帯同居（近居）」を支援し、職住近接の実現に向けて取り組みます。
- 都市資源の分散・老朽化等の現状を踏まえ、今後の大幅な人口減少を前提とした都市機能の集約を進めるなど、コンパクト・ビレッジの考え方に基づいた都市構造への転換を図ります。
- 人口減少局面における本市のライフラインともいえる JR 草津線の利便性を高め、市内の「道」を中心とした公共交通ネットワークを再編することで、鉄道とのベストミックスを図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標
転入者数	2,802 人／年 (H26)	2,902 人／年 (H31) (+100 人／毎年)

基本施策 1

甲賀らしい、市民幸福度の高い「まち」を追求する

基本目標

- 若者、女性、高齢者など、誰もが地域との関わり合いを持ち、その人らしく活躍できる場が見つけられる、安全・安心の「まち」を追求し、多様な人の多彩な能力を活かします。
- 地域に住む人・関わる人が、地域の未来をともに選択し、希望をかなえる「小規模多機能自治」の取り組みを推進し、市民幸福度の最大化と地域の自治の“進化”を図ります。
- 生活圏のなかで経済を廻し、生産と消費を近づけることで、「いきがい」を生みだします。

① 世界基準の安全・安心の推進

➤安全で安心して暮らせるまちは、居住地選択や企業の誘致において重要な要素となります。本市が取り組むセーフコミュニティの活動は、「自殺予防」「交通安全」「高齢者の安全」「子どもの安全」「災害被害の防止」の5つのテーマに基づき活動しています。これまで以上に住民同士のつながりを強めるとともに、多世代・多主体の協働を基礎とした幅広い活動をハード・ソフトの両面から支援します。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標
外傷にかかる救急搬送の件数 (10万人あたり)	1,097人/年(H25)	1,000人/年(H31)

② ふるさと集落生活圏の形成

- 中山間地域の日常の暮らしや文化がまとまった地域を「ふるさと集落生活圏」とし、医療・介護、福祉、教育、買物、交通、物流、燃料供給等の生活サービスを維持するなど、小規模多機能自治の取り組みを進めます。また、地域の文化や生業が継承されるよう、地域との対話を重ねながら「小さな拠点（多世代交流・多機能型）」の創設に向けて取り組みます。
- 福祉・保健・医療の関係機関等の市内・圏域・県内での連携を強化して、誰もが住み慣れた地域でその人らしく生活できるよう、地域とともに考える「全世代・全対象型地域包括支援※」の体制づくりを進めます。
- 自らの健康を自らつくり・守る意識づくりと実践を促進し、歳を重ねて培った知恵や経験を、誰もが地域や職場でもっと活かしていけるよう、その前提となる健康寿命の延伸を図ります。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標
介護保険第1号認定率 (%) ※抑制目標	16.8%(H26)	20.6%(H32推計) ⇒18.5%以下(H31)
市民幸福度の理想と現実の差 (%)	80.4%(H27)	85.4%(H31)
自治振興会活動に参加している人の割合 (%)	25.4%(H27)	33.0%(H31)

※全世代・全対象型地域包括支援

これまでの地域包括ケアシステムなどを着実に進めつつ、このコンセプトの適用範囲をさらに広げ、すべての人が年齢や状況を問わず、介護や障がい、子育て、生活困窮者といった分野の垣根を越えた支援を行うこと。

基本施策2

“ふるさと愛”を醸成して「ひと」を育てる

基本目標

- 甲賀の子どもが、健やかにたくましく成長し自立する過程を、ふるさとの自然と多世代の見守り・交流のもとでしっかりと支えて、「生きる力」の可能性に満ちた「ひと」を育てます。
- 甲賀の未来を担う子どもの「確かな育ち」は、まちづくりの根幹であるとの考えから、より質の高い教育環境を整えます。
- 都市部への若者の流出を減らし、進学や就職を機に転出した人の里帰りやUターンが進むよう、保育や学校教育などを通じて、甲賀の子どもに“ふるさと愛”を醸成します。
- 若い世代が、心豊かな交流のもとでパートナーと出会い、新しい家族をつくるチャンスを広げるとともに、子育て支援策の充実により、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえます。

③ 学ぶ子に“生きる力”を育む

- 学ぶ力、豊かな心、健やかな体のバランスが取れた「生きる力」を育む学校教育を行うなかで、子どもが郷土を愛し誇れるよう、地域の人々とふれあい、地域の魅力資源と出会う機会を充実させます。
- 甲賀市に育ったすべての子どもが、経済的な不安等を感じることなく、培った力を活かして世界に飛び立ち、のびのびと夢を追うチャレンジができるような支援を行います。
- 中山間地域に住む若者が、家から希望の学校に通学しやすい環境を整え、学びを支援するとともに、家庭の負担を軽減します。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標
全国学力・学習状況調査の結果 (点数)	全国平均点以下 (H26)	全国平均点以上 (H31)
児童生徒が読む書籍の数	小学校 9 冊/月 (H26) 中学校 4 冊/月 (H26)	小学校 10 冊/月 (H31) 中学校 5 冊/月 (H31)
運動やスポーツを習慣的にしている 子どもの割合 (小学 5 年生)	男子 69.2% (H26) 女子 46.1% (H26)	男子 75.0% (H31) 女性 55.0% (H31)

④ こうかで 1 more baby

- 地場産業、農業や自然など、甲賀市の地域資源・環境を活かした若者の出会いの場を官民の連携のもとで創出します。
- 子どもを産み育てることの喜びを若者に伝えるとともに、結婚・妊娠・出産・子育てについての若者の希望をかなえるため、世代と地域を越えた連携のもとで、本市の子育て環境を充実させます。
- 子育て世代が安心して働けるよう、現在の待機児童ゼロ施策をさらに進め、必要な人がいつでも保育サービスを利用できるようにするとともに、多様な保育サービスと学童保育の充実に向けた取り組みを進めます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標
合計特殊出生率	1.49 (H25)	1.60 (H31)
待機児童数	0 人 (H26)	0 人 (H31)

基本施策3

域内経済の好循環を導いて「しごと」を生み出す

基本目標

- 若者、女性、高齢者など、それぞれの特性を踏まえた活躍の場を提供し、多様な能力を最大限に発揮することで安定した所得を得られるよう「しごと」の選択肢をつくります。
- 甲賀市から未来を夢みて羽ばたいた若者が「将来、甲賀市に帰りたい」、「志をふるさとで叶えたい」と思えるようなまちの魅力をつくり、暮らしやすさ、働きやすさを全国に発信して、UIJターンを導きます。
- 窯業や農業、医薬品製造業などの地場産業を世界に発信し、これらとの連携や、物流至便で災害が少ないといった操業条件の魅力を活かした企業誘致と起業支援を促します。

⑤ 「活躍したい」をかなえる

- 地元企業等とともに市内での安定雇用の確保に努め、若者の働く意欲と能力を育み、雇用とのマッチングを支援するとともに起業支援を促進します。また、中高生に対して「ものづくり」の魅力伝えるなど、職業教育・キャリア教育により起業家精神を育みます。
- 誰もが自ら望むワーク・ライフ・バランスを選び、働き方の見直しを進めるため、若者、女性、高齢者などが地域や職場で活躍できるような取り組みを進めます。また、子育て等で活躍を中断させることのないよう、ライフ・ステージに応じた切れ目のない支援を行います。
- 本市の住みやすさ、暮らしやすさ、働きやすさを全国に発信し、移住定住を希望する人のニーズに応え、就労・子育て等の一元的な情報提供や“住まい”の支援を行います。また、地域住民との丁寧なつながりやUIJターンを導くなど、「ふるさと回帰」を促進します。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標
25歳から44歳の女性の就業率	70.7%(H22)	76.6%(H31)
20歳代(男女)の完全失業率	6.3%(H22)	5.5%(H31)
移住による転入者数	48人/年(H27推計)	62人/年(H31)

⑥ 地域の「稼ぐ力」アップ

- 地場産業の担い手である中堅・中小企業に対して、事業計画の策定や海外を含めた販路開拓等の経営支援を行い、いわゆる“外貨”を稼ぐ力を引き出します。
- 域内における消費の拡大に向けた支援と企業間の取り引きのマッチングを促進することで、地域で“お金”が廻るような支援を行い、地域経済全体への波及効果を生み出します。
- プロフェッショナル人材の新規就農を進めるとともに、農林産品の付加価値を高めるため「6次産業化」や「農商工連携」、「農観連携」、「医福食農連携」、「農エネ連携」といった他分野との連携を推進します。特に耕作放棄地を活用した事業などの立ち上がり期における支援を充実させ、生産性向上・成長産業化を促します。
- これまで中山間地域の里地里山を支えてきた、農業を営むことと他の仕事を両立させる「半農半X」というライフスタイルを支援し、若者や女性の新たなビジネスモデルの提案の場として、農村の価値を高めます。

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標
新規就農者数	2人(H26)	15人(H31)累計
起業者数	3社(H26)	35社(H31)累計

